

も う 1 さ つ

「あまり 本を よまないなー」

そんな人は、感想文の本の
ほかに もう1さつ
本をよんでみる、
いいかい。

「本 だーいすき！」

そんな人は、1さつでも
多く 本を よむ、いいかい。

このブックリストでは、
さいきん出た おすすめの本を
ごしょうかい します。

みなさん、夏休みに
あと“もう1さつ”、
本を よんで
みませんか？
すてきな 本に
であえたこと。
きっと 夏休みの
いい 思い出に
なりますよ！



このブックリストは出版社の許可を得て表紙に掲載しています



『ふとんかいすいよく』

山下明生/作 渡辺洋二/絵 あかね書房 1977

カズくんは、ちゅうじえんで ことしは およぐことが できません。そこで、とうちゃんは、ふとんの うみで およぎを おしえてくれることになりました。ふとんの うみを ぶたいに ちちと この ころあたたまる おはなしです。



『王さまのアイスクリーム』

フランセス・ステリット/文 光吉夏弥/訳 土方重巳/絵
大日本図書 2010

「あついときには、できるだけ つめたいクリームを たべたい！」
きむずかしい王さまの ねがいを かなえるために、コックちょうと むすめが かんがえて つくりだしたものは？ まだ、アイスクリームが なかった ころの おはなしです。



『かあさんをまつふゆ』

ジャクリン・ウッドソン/文 E. B. ルイス/絵 さくまゆみこ/訳
光村教育図書 2009

かあさんは、シカゴに はたらきに いくことになりました。わたしと おばあちゃんは、なんども てがみを かいて、だいすきな かあさんを まつています。そして、ふゆ。かえりを まつ しょうじょの おもいとうつくしいイラストが いんしょうてきな えほんです。



『すてきなルーちゃん』

たかどのほうこ/作・絵 偕成社 2009

つんちゃんの ママの いもうとは、ルーちゃんといって えかきさんです。ルーちゃんは いつも、つんちゃんに ちょっと かわった おはなしを してくれます。ほら、また つんちゃんのおうちに、ルーちゃんが あそびに きたみたい。こんかいは、どんな おはなしを してくれるのかな？



『すみれちゃんのあついなつ』

石井睦美/作 黒井健/絵 偕成社 2009

「なつやすみって、やっぱりすてき。」
おしやれで おしやまな すみれちゃんは、小学校2年生。たなばたや なつやすみのこと、家出の おはなし。すみれちゃんの なつが たくさん つまった 1冊です。



『リンカーンとダグラス』

ニッキー・ジョヴァンニ/文 ブライアン・コリアー/絵 さくまゆみこ/訳
光村教育図書 2009

アメリカ合衆国 16 代目の大統領に選ばれたリンカーンと、どれいとして生まれたダグラスは、意見をかわしあい、きょうりょくしながら「どれいせいはいし」という、共通の目標にむかいました。



『千年ギツネ』

岡崎祥久/文 水上みのり/絵 理論社 2009

物知りの男・チョウカの元に、一人の若い書生がやってきた。書生を化け物にちがいないと思ったチョウカは、知恵をしぼって正体を明かそうとします—表題作の「千年ギツネ」をはじめ、中国の古典「搜神記（そうしんき）」をもと書かれた、まかふしぎなお話 11 編がおさめられています。



『ロストガールズ』

宮下恵菜/文 たかおかゆみこ/絵 岩崎書店 2009

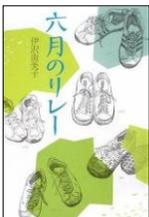
ずっとお母さんのいいなりだった珠緒。卒業式の服は、絶対自分が着たいものを選びたいと思っていたのに、またお母さんに決められそうになります。これまでの不満が爆発し、自分から迷子になろうと決意した珠緒が出会ったのは…？



『ぼくの夏休み革命』

つちもととしえ/文 大庭賢哉/絵 国土社 2010

近所で見つめた ゴミ屋敷を きっかけに、部屋の 大そうじを はじめた ぼく。すっきり かたづけると、生まれかわったみたいに いい気分！ ハトジジイとの 出会い、父さんの 新しい仕事、仲間といっしょのゴミ退治— ぼくの 革命的な夏が 始まる！



『六月のリレー』

伊沢由美子/文 小泉るみ子/画 偕成社 2009

六月の体育祭。2年D組リレー走者の5人は、それぞれ家庭に事情をかかえていたが、いざレースの時をむかえ、5人の気持ちはひとつになり、ゴールを目指す。なやみながらもけんめいに生きる子どもたちの物語。ひとりひとりが主人公となった短めのお話、大きなひとつのお話になっていて、読み終わったとき、とてもさわやかな気持ちになります。



『国境なき大陸 南極』

—きみに伝えたい地球を救うヒント—

柴田鉄治/作 富山房インターナショナル 2009

南極は、地球上で唯一の 国境のない大陸です。その南極って、いったいどんなところ？ 温暖化や 核戦争の危機を 救うには、「世界中を南極に」すればいい？ 元新聞記者の著者が伝える、「南極から見た地球」の話。かわいらしい ペンギンの写真や エピソードも 登場します。



『秘密の菜園』

後藤みわこ/文 姚菲拉/イラスト ポプラ社 2009

近道して友人の家に向かった阪田祥一郎は、道に迷い、植物がたくさん植えられた空き家の庭に迷い込んでしまう。そこで知り合った少年・タキイと少しずつ距離を縮めていく…が、タキイは謎の少年だった。オナチューらしいけれども、学校を探してもいない。タキイはいったい何者？—小さな勘違いから生まれた友情をみずみずしく描いた、夏におすすめの物語。



『友情リアル』

はやみねかおる、立石彰、福田隆浩、坂元純/著 講談社 2009

人気作家・注目作家 4 人による、友情をテーマにした短編集です。友情とは、—さわやか？ドロドロ？アツい？クール？この 1 冊で、様々な気持ちを感じることができます。この夏、あなたも“友情”について考えてみては？



『みどりのゆび』（愛蔵版）

モーリス・ドリュオン/作 ジャクリーヌ・デュエム/絵 安東次男/訳 岩波書店 2009

チトは、親指をおしつけると、緑を芽生えさせ、花を咲かせることのできる“みどりのゆび”をもつ少年です。その能力を、弱い立場の人々や平和のために使い、そこには、希望が生まれます。



『ぼくがバイオリンを弾く理由』

西村すぐり/作 スカイエマ/絵 ポプラ社 2008

ずっと続けてきたバイオリンをやめようと決意した、夏。少年バイオリニストが、たくさんの人と知り合い、一枚の楽譜とであったことから、成長していく物語。第 1 回ポプラズッコケ文学賞入選作。スカイエマの絵もすてきです。